

## 今日のみことば

### □ 4月29日(日) サムエル記下 24章

ダビデの数ある罪の最後に記録されるのが「兵を数える罪」です。その背後に隠されているのは高慢です。それでも神の憐れみはダビデの上にあります。

### □ 4月30日(月) 列王記上 1章

老齢となつたダビデに代わつて王位を狙つたアドニヤがいたが神はダビデにソロモンを後継者として指名しておられた。ヨナタンはしっかりその後押しをしました。

### □ 5月1日(火) 列王記上 2章

ダビデの死によってソロモンが正式に王位を継承しました。ダビデはすべてのことをソロモンにゆだね、ソロモンはダビデ王朝の権威を品位を守りました。

### □ 5月2日(水) 列王記上 3章

神はソロモンに現れて「あなたに何を与えようか。願え」と言われたとき、彼は王らしく「民を正しくさばくために、聞き分ける心を与えてほしい」と願いました。

### □ 5月3日(木) 列王記上 4章

ソロモン王国の繁栄は、新しい政治組織体制を作り上げたことです。その繁栄は神の祝福ですが、同時にそれを誇示する人間の弱さをも暗示しています。

### □ 5月4日(金) 列王記上 5章

ダビデは神殿を建てることを願つたがそれはかなわず、ソロモンにゆだねられた。そこでソロモンはダビデの友人であったツロの王ヒラムの助力を得て準備を始めた。

### □ 5月5日(土) 列王記上 6章

ここには神殿はどのように建築すべきかについて記されています。一見無味乾燥に見える記述の中からも、私たちは主のみ心を学ぶことができます。

---

ろ ぼ No. 1865  
2018年 4月29日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

詩篇 32:1-2

いかに幸いなことでしょうか。背きをゆるされ、罪を覆っていただいた者は、いかに幸いなことでしょうか。主に咎を教えられず、心に欺きのない人は。

キリストの復活の出来事を通して私たちは、どのようなことに遭遇しようとも恐れることはない。しっかりと力を与えられています。ダビデの歌を通して私たちはその確信をいただいています。そこでダビデは私たちにどのようなことを語り教えてくれるのでしょうか。その思いを私たちはしっかりと聞き取らせていただくのです。ダビデが「絶え間ない呻きに骨まで朽ち果てました。」と言う中で彼が知ったのは何か。「わたしは言いました。『主にわたしの背きを告白しよう』」と言うことでした。自分をしっかりと見つめることなしに、自分が何者であるかを知ることなしに、私たちに力が与えられることはありません。ダビデは自分の犯した罪の恐ろしさを悔改め告白した時、「あなた

はわたしの罪と過ちを赦してくださいました」とその喜びを告白しています。私は、あの偉大なるダビデ王の秘密をここに見るのでした。自分を見つめるとき、彼が手にしたものは、計り知れない神さまの慈しみでした。それを知った時のダビデの思いを私は忘れることができません(サムエル下12:13-33)。本当の勇氣と確信は、自分を知り、悔い改めて主の赦しをいただくとき与えられるものだと思はれるのでした。

ダビデは歌います。「あなたの慈しみに生きる人は皆／あなたを見出しうる間にあなたに祈ります」と。私たちは神さまを

知っています。だから私たちは何の心配をすることはありません。ただ言葉に生きるだけです。こんな心強さを私たちはどこに見出させていただくことができますか。私たちはここ、ダビデの罪の告白の出来事を通して見させていただくのではありませんか。ダビデが心から罪を悔い改め「『主に私の背きを告白しよう』と言ったそのとき、あなたは私の罪と過ちを赦して下さいました」と、言うのでした。主は悔い改めが起こるとすぐに、赦しの恵みを与えて下さいました。この神の恵みの赦しこそ、信仰者のよりどころです。そこでダビデは「わたしはあなたを目覚めさせ／行くべき道を教えよう」と言います。その信頼こそが私たちの力の源です。

パウロは「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるように下さることを、わたしたちは知っています」(ⅱコリ8:15)と言いました。さらに彼は「わたしたちを愛して下さいました方によって、これらすべての事において勝ち得てあまりがある」(ⅱコリ8:37)と言うのです。赦し的主は、キリストの復活を通してさらに、私たちに確かさを与えて下さいました。ヨブが想像を絶する苦難の中に置かれながら「わたしたちは神から幸福をいただいたのだから、不幸もいただくのではないか」(ヨブ2:10)と言った驚くべき言葉は、信仰者がしっかりと体験させていただいているものです。自分の本当の正体を知ったら、ただただびっくりするばかりです。そして心からの悔い改めが成されるところにキリストの十字架の贖いがあります。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

コリントー 11:17-34 ふさわしい仕方

この聖書は主の晩餐式の時に読ませていただいている箇所です。パウロはしっかりと、主が私たちに残して下さった、この出来事が、どのような思いで弟子たちに伝えられたかを読み取らせていただかねばなりません。

ここから聞くべき第一のことは、教会の一致です。コリント教会には分裂がありました。そのような中で主の晩餐式にあずかるということはありません。またコリント教会には差別がありました。キリストの教会とは主のみ心に従って生きる人たちの群れです。

パウロがこの主の晩餐式を通して私たちに示唆するものは、この晩餐式は、一般に言うところの晩餐ではないということです。イエスは「記念としてこれを行え」と言われました。明らかに主イエスの十字架の出来事を指しています。それこそが主の晩餐式に連なる私たちの大切な心得です。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

箴言3:5-6

心配をも克服